



5歳児後半に見られる姿



生活やあそびの中で、みんなが過ごしやすいように片付けるなど、やるべきことに取り組めるようになる。



自分のやりたいことを見つけて、目標に向かって工夫したり周りの力を借りたりしてやり遂げようとする。



最後までやり遂げて周囲に認められることで自信をもち、さらに難しいことにチャレンジしてみようとする。

この姿につながる5歳までの育ち



0歳児

保育者との信頼関係ができてきて、安心して自分から動くようになる。

2歳児

自分でやってみようとして、できなくても受け入れられる体験を通して、自己肯定感が身につく。

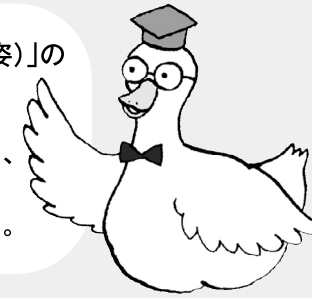


3歳児

あそびを楽しむ中で、自分なりの目標を持って粘り強く取り組む姿が見られる。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」の自立心。

ここでは、指針・要領の記載を読み解きながら、5歳児後半で見られる具体的な姿、そして、その姿につながる5歳までの育ちを見てみよう。



言葉CHECK!

自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

保育所保育指針第1章4-(2)イより
(幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領にも同様の記載あり)

この姿のポイント

◎ しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりする



5歳児の後半になると、主体的に生活したりあそんだりするなかで、自分がやりたいことやしなければならないことを自覚するようになる。そして、自分の力でやり遂げるために、集中して取り組んだり試行錯誤したりする。こうした物事に挑戦していく姿が、資質・能力の「学びに向かう力」につながるんじや。保育者は、子どもが思い切り挑戦できるような環境作りを意識しよう。

◎ 諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる



やりたいことでも、うまくいかなかったり手間がかかったりすると、嫌になることもある。でもここで我慢したり、もう少し頑張ったりすることで達成した充実感は自信につながり、生きていく上での力になるんじや。この粘り強く取り組む力は「非認知的能力」と呼ばれている。もちろん、保育者の励ましが子どもの粘り強さや達成感を高めるのは、言うまでもないことじやな。

僕が達成感を味わったのは、初めて空を飛べたとき!



やさしい三法令

其の十四

自立心

シリーズ

極める! 10の姿

これが変わった!!